

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クラブ 旭校		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 24日		～ 2026年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		～ 2026年 2月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援と集団活動の専門的な両立 個別支援によるスキル習得に加え、旭校独自の「運動療育」や「帰りの会でのSST（ソーシャルスキルトレーニング：社会生活技能訓練）」を導入することで、集団生活に必要な社会性を多角的に育んでいる点。	学習サポート主軸の個別支援と、自立学習目的のセルフワーク、そして小集団でのグループワークを効果的に組み合わせています。また、児発管の指導のもと、旭校独自の試みとして運動療育や帰りの会でのSSTを導入しています。これらを通じ、楽しみながら集団生活に必要な社会性を育む時間を設けております。	今後もお子さま一人ひとりの特性に合わせた専門的な助言・指導を継続し、集団生活で役立つ「生きる力」を多角的にサポートできる体制を強化します。
2	多角的な余暇活動と主体的な体験支援 サーキットでのラジコン操作やプログラミング教室、季節の外出支援など、土・祝日を含めた多彩なプログラムを通じ、自信と興味を促している点。	児発管のアドバイスに基づき、活動プログラムが固定化しないよう職員間で内容を吟味しております。お子さまの興味を引き出すメニューを立案し、家庭では経験しにくい専門的な活動を通じ、「できた！」という自信と新たな興味の開拓を促しています。	保護者様からいただいた「家庭ではできない活動が参考になる」というお声を大切に、アンケート結果等を反映させながら、さらに満足度の高い体験プログラムを追求します。
3	専門スタッフによる質の高いチーム支援 多数の有資格者が在籍し、児発管の指導のもと職員間でプログラムを吟味・共有することで、一人ひとりの進捗や特性に合わせた柔軟な支援を提供できている点。	活動前後のミーティングにおいて、児発管からの具体的な助言や支援方法を共有し、職員全員が共通認識を持って対応しております。また、外部研修や系列校との事例検討会を通じ、常に最新の療育知識を支援現場に還元する仕組みを整えています。	職員個々の専門性を最大限に活かしつつ、事業所全体での支援スキル向上を図ることで、より手厚く、安心感のある居場所作りを継続します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎体制の安定化と安全確保 特定の時間帯における送迎の集中と、それに伴う職員・スタッフや車両の不足。	近隣の小中学校等の教育課程の変更等により、下校時刻が同一時刻に重なるケースが増加しております。これにより、従来の送迎ルート配分では到着時間の遅延や、待機時間の発生が避けられない状況が要因と考えております。	学校側との下校スケジュールの情報を密に共有し、柔軟な送迎ルートの再編を随時行います。学校での待機時間の調整や、安全な引き渡し手順の再徹底を図ることで、限られた職員・スタッフや車両の中でも、お子さまが不安を感じず安全に移動できる体制を維持・強化してまいります。
2	学校や地域社会との密な連携 学校と放課後等デイサービスの役割分担、および療育方針に関する相互理解の深化。	学校側との接点が送迎時に限られ、学習や心理面の細やかな変化を把握しきれていない現状があります。療育方針の共有が不十分だと支援の一貫性を欠き、お子さまが環境の切り替えに戸惑う一因となります。こうした背景から、学校と連携してお子さまを支える体制強化が不可欠であると分析しております。	児発管を中心としたモニタリング等の学校訪問や、多角的な意見・情報交換の機会を積極的に設けてまいります。地域・学校・家庭が一体となってお子さまを支える「チーム療育」の要として、当事業所の専門性を正しく発信し、一人ひとりに寄り添った一貫した支援体制の構築に努めます。
3	施設構造（トイレ設備）の運用と配慮 施設構造上の制約による、特定のタイミングでのトイレの混雑。	当施設は民家改修型という特性上、トイレが一箇所のみの設置となっております。自由時間やプログラムの合間など、利用希望が重なる際のプライバシー確保と待ち時間の発生が物理的な課題となっております。	職員による活動前後の積極的な声掛けをルーティン化し、一斉の利用を避ける「計画的な時間分散」を徹底しております。今後も清潔感を維持し、お子さまが自身のペースで安心して利用できるよう、環境整備と並行して一人ひとりのタイミングに合わせた細やかな配慮を継続します。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	クラブ 旭校		公表日		2026年3月31日		利用児童数	34	回収数	23
環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	2		1	・外出でなく、1日過ごすとするとう少し広ければ有難いです。 ・もう少し広くてもいいかなと思います。	訓練指導室は国の設備基準を満たす広さを確保しており、集団活動を円滑に行える空間です。今後も備品配置や動線を工夫し、お子さまが安全にのびのびと活動できるような環境整備を継続いたします。		
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	20			3		国の基準を遵守し、加算要件を満たす人員配置を行っております。今後も児童分野での経験豊富な専門員を適正に配置し、お子さま一人ひとりに手厚く、質の高い支援を提供できる体制を維持してまいります。			
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	1		2		ホワイトボード等での可視化や整理整頓により、お子さまが活動の見通しを立てやすい環境を整えております。現在、車椅子の利用者は不在のため専用設備はございませんが、手すり設置や職員の昇降補助により安全を確保しております。今後も特性に応じた環境整備に尽力いたします。			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	21	1		1		療育ごとに次亜塩素酸水での消毒を徹底し、清潔な環境を維持しております。また、適温管理や定期的な換気を行い、お子さまが心地よく活動できる空間作りに注力いたします。			
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	23				アセスメントを通じて把握したお子さまの特性に合わせ、個別支援計画および専門的支援計画を策定しております。計画書に定めた目標に沿って、専門的な視点から最適なアプローチを実施し、お子さまの成長を多角的にサポートしています。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	23				個別支援、セルフワーク、グループワークを療育の柱として支援を展開しています。あわせて旭校独自の試みとして、帰りの会でSSTを兼ねたミニゲームも実施しており、多角的なアプローチでお子さまの社会性と自己肯定感の向上を図っております。			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23				日々の活動観察や発達検査を通じ、お子さまと保護者様のニーズの把握に努めております。客観的な分析のもと、一人ひとりに適した個別支援計画を作成し、日々の支援の充実と質の向上に努めております。			
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	22	1			個別支援計画は5領域に基づき、ガイドラインが定める「本人・家族・移行支援」を網羅して作成しております。お子さまの発達状況に合わせ最適な項目を選択し、内容のご確認とご署名を徹底しております。今後も面談や日報を通じ、活動の成果や成長をより実感いただけるよう情報共有に努めます。			
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23				個別支援計画に基づいた適切な支援を提供できるよう、活動前後のミーティングにて児童発達支援管理責任者からの助言や支援方法を共有し、質の維持・向上に努めております。今後もお子さま一人ひとりの目標達成に向けた丁寧な関わりを継続いたします。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23				・家でできないグループ活動が多様にあって参考になります。 SSTや運動療育、布を用いた表現活動など、集団ならではの経験を重視した多彩なメニューを取り入れております。今後もお子さまやグループの進度、季節感に合わせ、内容を柔軟にステップアップさせるなど、飽きのこないプログラム展開に注力します。			
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13	2		8	外出支援活動の際、公園等で他児に譲るなど社会性の育ちが見られます。今後も日報等を通じ、こうした事業所外での活動成果を実感を伴い共有できるよう努めます。			
12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23				契約時に各事項を丁寧に説明し、同意をいただいております。今後も面談等を通じ、常に安心・納得してご利用いただけるよう再確認と丁寧な共有を徹底いたします。				
13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23				計画書の内容を丁寧に説明し、ご確認の上でご署名をいただいております。今後も面談等を通じ、支援目標や取り組みの分かりやすい共有に注力いたします。				

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	18	2	3	・今後機会があれば参加したいです。	相談時は電話や面談、OneReadアプリ等で都度対応しております。保護者会での個別相談も実施しました。今後もニーズを伺い、支援プログラム等の開催を検討してまいります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	23			・送迎時やアプリの日報で活動の様子を聞くことができありがたいです。	アプリの日報やチャット、送迎時の対話を通じ、活動や体調を詳細に報告しております。お子さまの状況について常に共通認識を持てるよう、今後も保護者様との緊密な連携を継続してまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23				年2回のモニタリング面談やチャットにて随時相談に応じております。保護者会でも個別の相談時間を設けました。今後もこうした場を通じ、一人ひとりに寄り添った支援を行います。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23				お子さま主体の視点を持ち、最善の利益を優先することを日頃より重視しております。共感的な関わりを通してお子さまや保護者様に寄り添い、今後も双方が安心して過ごせる環境作りを継続いたします。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	21	1	1	・同じような特性を持つ保護者さんと語らえるのはありがたいので、もう少し長く時間をとってもらえると有難いです。	お子さまの活動の様子をご覧いただくため、R7年6月に保護者会、12月末に2週間の支援参観を実施しました。当日ご希望の方には個別相談の時間も設けております。今後もこうした交流や相談の場をさらに充実させてまいります。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	1	1		契約時に相談窓口をご説明しております。ご相談を受けた際はその都度、電話や面談、アプリ等を通じて迅速かつ丁寧に対応しております。今後も、常に安心してご相談いただける体制維持に取り組みます。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22		1		送迎時やアプリ、電話で意向を伺い、お子さまの様子も日報等で細かに共有しております。ご相談には面談やチャット等で迅速かつ丁寧に対応し、今後も確実な意思疎通に図ってまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	22	1			年4回の会報誌や年1回のクラブ新聞を発行し、HPのブログでも活動を公開しております。今後もより多くの方に活動内容が広くよう周知を徹底いたします。
22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22		1		書類は鍵付き書庫で厳重に管理し、4台のカメラを設置するなど防犯対策を徹底しております。職員への注意喚起を継続し、今後も情報の適正な取扱いに細心の注意を払います。	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	1			契約時での説明に加え、入口に専用ファイルを常置し閲覧可能としております。今後も緊急時の対応について周知を徹底し、安全な運営に努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	22		1		3月と9月の年2回、防災・避難訓練を実施しております。直近はR8年3月20日に行いました。今後も有事の際の迅速な行動に向け、訓練を継続し備えを強化してまいります。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22	1			契約時に安全計画をご説明し、同意書にて了承をいただいております。マニュアルの常置に加え、職員は定期的に外部・リモート研修に参加し研鑽に励んでおります。
	26	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23				契約時に緊急連絡先や事故対応、身体拘束等の同意を個別に得ております。今後も有事の際はマニュアルに基づき、ご家族への速やかな連絡と状況説明を徹底いたします。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	23			・「お友達もスタッフの皆さんも優しく好きです」と教えてくれました。 ・毎週行くのを楽しみにしています！祝日のイベントに何回か参加させていただきました。	平日の支援では個別支援プリントの精査や手順の可視化を行い、お子さまが『次に何をすべきか』を理解し、落ち着いて過ごせるよう配慮しております。今後も一人ひとりに寄り添った丁寧な関わりを大切に、心から安心できる居場所作りを継続いたします。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	22	1		・イベントも楽しかったようで、また行きたいと言っていました。他の事業所も利用していますが、イベント時の特別感(?)が本人にはうれしいようです。 ・祭日イベントも楽しいようで、なるべく予定を合わせて参加したいです。 ・いつも楽しみにしています!! イベントでも毎回「楽しかった!!!」と言っています!!	ご好評いただいている祝日イベントに加え、土曜日のプログラミングやラジオコン操作といった体験型の支援をさらに充実させていく考えです。お子さまが自発的に『やりたい!』と思えるような魅力あるプログラムを、今後も多彩に提供してまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23			・いつも親切丁寧にご対応いただき、親子共々、大変満足しております。 ・いつも丁寧で、その子に合った支援をしていただき感謝しています。 ・いつも色々のご指導ありがとうございます! 本当にありがたいです! これからもよろしくお願い致します。	SSTのミニゲームを取り入れた対人スキルの向上や、支援手法の細かな見直しなど、療育の質を高める取り組みに日々励んでおります。お子さまの確かな成長を実感していただけるよう、全スタッフが一丸となって専門性の向上に尽力いたします。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	クラブ 旭校		公表日		2026年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	●基準を満たす訓練指導室を確保し、支援内容や状況に応じて個別と集団の空間を使い分ける等、最適な環境を整えています。	◆アンケートにて「1日過ごすには少し狭く感じる」との声をいただいております。家具配置の工夫で開放感を高めます。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	●有資格者を中心に手厚く配置し、お子さまに寄り添い支援しています。心理・健康状態に応じ、柔軟な担当変更にも努めています。	◆職員間の連携をさらに密にし、より細やかな対応を目指します。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	●ホワイトボードやタイマーでの可視化等、見通しを持てる環境を整えています。	◆民家改修型の特性上、完全なバリアフリーではない箇所があり、安全な誘導を徹底しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	●毎日の清掃・消毒を徹底し、季節の装飾等で温かみのある空間を作っています。	◆お子さまの動線に合わせた、より使いやすい収納配置を追求します。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	●状況に応じてクールダウンが必要な際、一人で落ち着ける静養スペースを確保し、対応しています。	◆引き続き、安心安全な環境作りを心掛けます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	●毎日の共有会や月例会議を通じ、全職員が支援の目標設定と振り返りと改善案の共有（PDCAサイクル）に参画しています。	◆振り返りの内容をより具体化し、個別の支援計画へ迅速に反映させます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	●ホームページにて評価、公表を行っています。いただいたご意見を基に、現状把握、課題と業務の見直しを図っています。	◆回答の分析結果を、より分かりやすい形で保護者様へフィードバックできるよう努めます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	●職員ミーティングで意見交換を行い、検討・改善、新しいアクティビティ（プログラミング等）の導入に繋げています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	●保護者会でのアンケート実施や学校関係者の見学を通じ、外部視点を取り入れています。透明性の高い運営に努めます。	◆今後は専門機関による第三者評価の受審も検討し、更なる透明性の向上に努めます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	●外部研修や定期的外部講師を招いた社内事例検討、児発管による内部研修を通じ、全職員で支援の質の向上に努めています。	◆職員の資質向上評価について丁寧な説明の場を設けるとともに、指摘事項を真摯に受け止め、改善計画を策定し実行に移します。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	●ホームページ内で公表しています。外出支援や防災訓練、土曜のラジコン操作等を通じ、地域住民との交流機会を設けています。	◆近隣との日常的な交流を大切にし、保護者への周知もさらに徹底してまいります。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	●児発管が聞き取りしたニーズや課題を分析し、支援計画を作成しています。モニタリング等を通じ、適切な支援に努めています。	◆今後も包括的な支援と具体的な計画作成の両立を目指します。個々のアセスメントと課題抽出を徹底し、計画の質を向上させます。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	●児発管中心に会議や共有会を行い、職員間で意見を出し合っています。共通理解を深め、最善の計画作成と共有を行っています。	◆引き続き、非常勤職員との共有機会を増やし共通理解を深めます。チーム全体で質の高い支援を目指します。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	●毎日の共有会やケース会議を通じて職員で計画内容を把握しています。日々の支援内容を統一し、実践しています。	◆職員間での支援方針の統一をさらに徹底します。日々の気づきを計画に素早く反映し、支援の質を向上させます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	●チェックシートや外部検査、面談、行動観察を多角的に活用しています。客観的な指標で状況判断、現状把握を徹底します。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	●ガイドラインが定める4つの支援領域を軸に、お子さまの特性やご家庭の意向を多角的に考慮した計画を作成しています。定期的なモニタリングを通じ、日々の成長や変化に合わせて目標や支援内容を柔軟に修正しています。	◆引き続きお子さまの特性や発達状況をきめ細かく踏まえ、より具体的に実効性の高い支援内容を設定していきます。包括的な視点での支援を継続し、個別支援計画のさらなる質の向上と、ご本人に寄り添った支援の充実を図ります。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	●毎日の共有会や会議で全職員が意見を出し合い、立案しています。多様な視点を支援に取り入れています。		

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	●SSTや運動療育など、個々の進捗を吟味し新規メニューを導入しています。マンネリを防ぎます。	◆お子さま一人ひとりの体力や特性に配慮した個別メニューを拡充します。飽きのこない支援を目指します。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	●個別での学習支援と小集団でのグループ活動、運動療育・SST等の集団活動を柔軟に編成し、最適な計画を運営し支援しています。	◆集団活動が苦手なお子さまへの個別配慮をさらに細分化します。無理なく参加できる環境を検討します。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	●朝礼や中礼にて児発管を中心に、その日の主担当や補助、重要事項を徹底共有し、チームで連携します。	◆急な状況変化にも即応できるよう連絡体制を効率化します。支援の連続性と安全性をさらに高めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	●終礼等でその日の気づきを即座に共有し、翌日の支援改善に繋げています。また、記録に残して見返せるようにしています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	●アプリ等への記録を徹底し、活動内容を可視化しています。支援の検証と客観的な振り返りに活用します。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	●児発管が主導し、関係機関と連携します。規定の半年以外でも、変化に応じ随時、計画の修正を行います。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	●ガイドラインの「5領域」を網羅し、健康や生活、運動、認知、言語等をバランスよく提供しています。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	●ヒアリングや支援を通じ、セルフワーク活動等で自分で選ぶ機会を作り、意思決定を尊重します。	◆選択肢の提示方法を工夫し、より意思表示しやすい環境を整えます。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	●お子さまの特性を熟知した児発管や担当者が会議へ参画しています。適切な支援方針を関係各所と共有しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	●相談支援事業所等と連携し、必要な情報を共有しています。他事業所との連絡体制も強化しています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	●送迎時の対面共有や電話を通じ、下校時刻や学校での様子を確認しています。	◆行事等による急な予定変更の把握漏れがないよう、確認を徹底します。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	●新規利用時に相談事業所を介して前籍の事業所等の資料を引き継ぎ、継続性を確保しています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8	●進路先へサポートブック等の資料を提供し、情報を引き継いでいます。	◆引き続き、円滑な移行を継続的に支援します。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	●定期的に外部専門家によるスーパーバイズを受ける機会を設け、専門性を高めています。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	8	●外出支援で公園等を利用し、地域のお子さまと同じ空間で活動しています。	◆交流をより深めるため、具体的な合同イベント（防災訓練等）の機会を模索します。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8	●児発管を中心に地域の自立支援協議会等に参画し、地域福祉の課題共有を行っています。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	●アプリや送迎時の対話を通じ、お子さまの状況を即座に共有しています。面談を重ね、共通理解を深めています。	◆さらに話しやすい相談支援体制を構築します。ご家庭の些細な悩みにも寄り添える環境作りを徹底します。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	●保護者会や支援参観等を通じて行いました。また、会報誌や面談を通じて家族支援にも努めています。	◆日程により、参加が難しいとの声もあります。より多くの方が参加できる開催方法を柔軟に検討します。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	●契約時に重要事項説明書を用い、運営規定や料金体系を丁寧に説明しています。納得いただける契約を徹底しております。	◆制度改正等の情報を適宜反映させ、常に最新の情報を分かりやすくお伝えできる体制を維持していきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	●作成前に必ず面談を行い、お子さまやご家族の意向を最優先に反映させています。最善の利益を共に追求しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	●個別・専門的支援計画書を交付し、納得いただいた上で署名・捺印をいただいています。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	●電話や連絡アプリで随時相談に応じ、迅速な助言体制を整えています。ご家庭の孤立を防ぐ支援を継続します。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	●定期的に保護者会を開催し、悩みや情報を共有できる交流の場を提供しています。親同士の繋がりを支えます。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	●苦情相談窓口を設置し、迅速かつ適切に対応する体制を整えています。頂いた意見を真摯に受け止め改善します。	◆些細なご意見も吸い上げられるよう、アンケートの実施頻度や回収方法を見直し、満足度の向上を図ります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	●会報誌の発行やブログでの活動報告を継続的に行っています。支援の様子を可視化し、透明性を高めています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	●鍵付き書庫での厳重な管理と、職員の守秘義務を徹底しています。デジタル面でも対策を講じ、安全性を高めています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	●視覚支援（タイマー、ホワイトボード、絵カード）等を用い、特性に合わせた伝達工夫をしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	●防災訓練やラジコン教室に地域の方を招く等、地域交流を推進しています。開かれた事業所運営を継続します。	◆地域の行事にも積極的に参加し、地域住民の方々との相互理解を深めることで、共生社会の実現に貢献します。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	●感染症や事故防止等の各マニュアルを厳守し、流行状況に応じた警戒態勢を常に構築して実践的な研修と訓練を徹底しています。	◆マニュアルの設置場所や内容の周知をさらに徹底し、緊急時に即応できるよう実践的な訓練の充実に努めます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	●災害時継続計画を策定し、3月・9月の年2回、防災・避難訓練を継続しています。（直近は令和8年3月に実施済みです）	◆BCPの内容について、全職員への更なる周知・定着を図ります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	●アセスメントでの確認や定期的な聞き取りを行い、服薬や既往歴等の最新情報を常に把握し共有しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	●医師の指示書を基に除去食等の複数確認を徹底し、小麦粉粘土等の教材も同意を得た上で用いるなど安全を優先しています。	◆全職員への指示内容の共有をさらに迅速化し、定期的な確認と緊急時シミュレーションの継続で安全性を高めます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	●安全計画を策定し全職員で周知しています。研修や訓練を通じ、安全管理を徹底した環境下で支援しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	●契約時や会報誌を通じ、事業所の安全対策や避難計画を保護者様へ伝えていきます。安心感の醸成に努めています。	◆災害時の連絡手段や避難場所を可視化して発信し、安全計画のさらなる周知と家庭との緊密な連携を深めます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	●危険事例や小さな気づきを即座に記録し、会議での原因分析と対策共有を通じて全職員で再発防止を徹底しています。	◆ヒヤリハットの収集をさらに強化し、事故の未然防止を追求します。リスク点検を日々徹底します。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	●研修を定期開催し、権利擁護意識の向上と不適切な関わりの防止を徹底しています。人権を尊重し支援します。	◆外部研修の知見を内部で共有し、職員同士が声を掛け合える風通しの良い組織作りと支援の質向上に邁進します。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	●身体拘束適正化委員会を設置し、ゼロを原則に必要な性を厳格に検討。契約時の丁寧な説明と同意を徹底しています。		